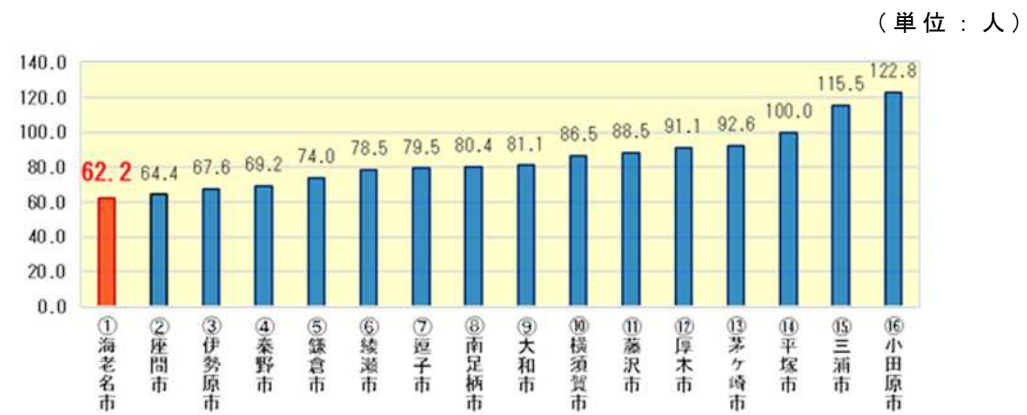


えびなみらい定員管理計画2026概要版

- ① 前計画**
- ① 計画：定員962人 正規職員927人
 - ② 結果：定員899人 正規職員874人（R7.4現在）
 - ③ 内訳：正規874人＋再任用35人＋任期付22人－定数外32人＝定員899人
 - ④ 主な要因（採用の辞退率が高く、見込んだ職員を採用できなかったこと。）

↓ 定員管理の現状を分析

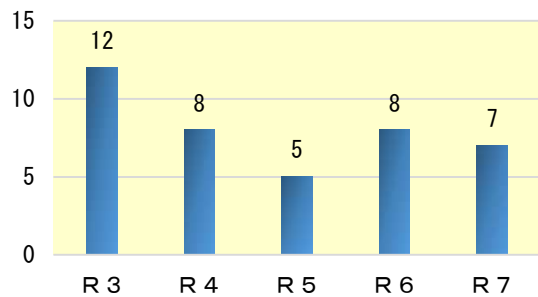
- ② 現状の分析**
- ① 人口1万人当たりの職員数は62.2人で、県内1位（最新：R6年調査時点）
 - ② 定員管理診断表の診断では、少ない職員数（最新：R6年調査時点）
- ↑ **民間委託、指定管理者制度の活用等を含めた取組の結果だが今後は増員が必要**



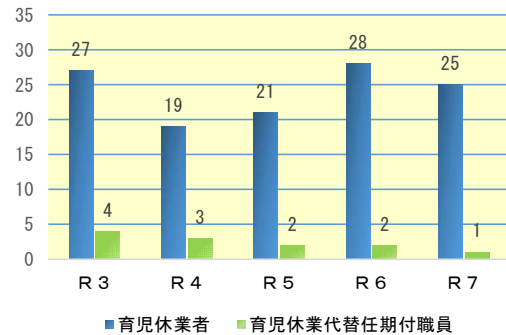
↓ 今後の定員管理を行う上での課題を抽出

- ③ 定員管理の課題**
- ① 人口の増加 ⇒ 業務量の増加や住民ニーズの多様化へ対応が必要。
 - ② 定年引上げと採用人数 ⇒ 退職が2年に1度になり採用平準化が必要。
 - ③ 消防力強化・維持の体制づくり ⇒ 消防職員数の現状維持が必要。
 - ④ DXの推進 ⇒ AIなどを活用し、業務の効率化と生産性を高めることが必要。
 - ⑤ 休職者・休業者が年度当初平均31.2人 ⇒ 実勤務職員の確保。
 - ・休職者（年度当初平均6.6人） ⇒ 今後も継続的な把握が必要。
 - ・育児休業（年度当初平均24.6） ⇒ 今後も取得向上の取組みが進む想定。

【表1】休職者数 (単位：人)



【表2】育児休業者数等 (単位：人)



【策定の理由・趣旨】

- ① 『えびなみらい定員管理計画』の計画期間の満了
- ② 『えびな未来創造プラン2020』の計画期間を踏まえて策定
- ③ 『持続可能な開発目標SDGs』への関連を踏まえて策定
- ④ 『海老名市DX推進計画』を踏まえて策定

新たな定員管理計画

1 計画期間

- (1) 計画期間は、「令和8年4月1日～令和11年3月31日」とします。
- (2) 計画期間内において計画の見直しが必要となった際は、適宜見直します。

2 目標

区分	R7.4.1	R8.4.1	R9.4.1※2	R10.4.1	R11.3.31	増員数※3
定員	899(962)人	943(970)人	960(970)人	970(970)人	970人	8人

- ※1 () 内の数値は、定数とします。
- ※2 は、定年退職者が発生した直後の4月1日です。
- ※3 は、定数からの増員数とします。

定員の対象職員については、定数条例の定数の対象となる職員とします。

- ① 市民サービスの維持・向上に必要な定員……………人口1万人当たり67人（前計画の市民1万人当たりの定員の目標を参考）
- ② 消防力維持・強化に必要な定員……………205人
- ③ 休職・休業に対応するための体制づくりに必要となる職員数…31人（管理基準）

3 今後の取組

- (1) 計画的な採用、専門職の確保への取組
- (2) 技能労務職のあり方等の検討促進、暫定再任用職員・任期付職員等の活用
- (3) 柔軟な人事管理・職員の適性配置・人材育成への取組、働き方改革等の取組
- (4) 『海老名市DX推進計画』に沿った「行政運営」のデジタル化の取組
- (5) 『海老名市行政改革指針』に沿った取組
- (6) 民間への委託等の検討